

北興化学工業株式会社

2022年11月期決算説明資料

2023年1月13日

東証スタンダード 証券コード4992

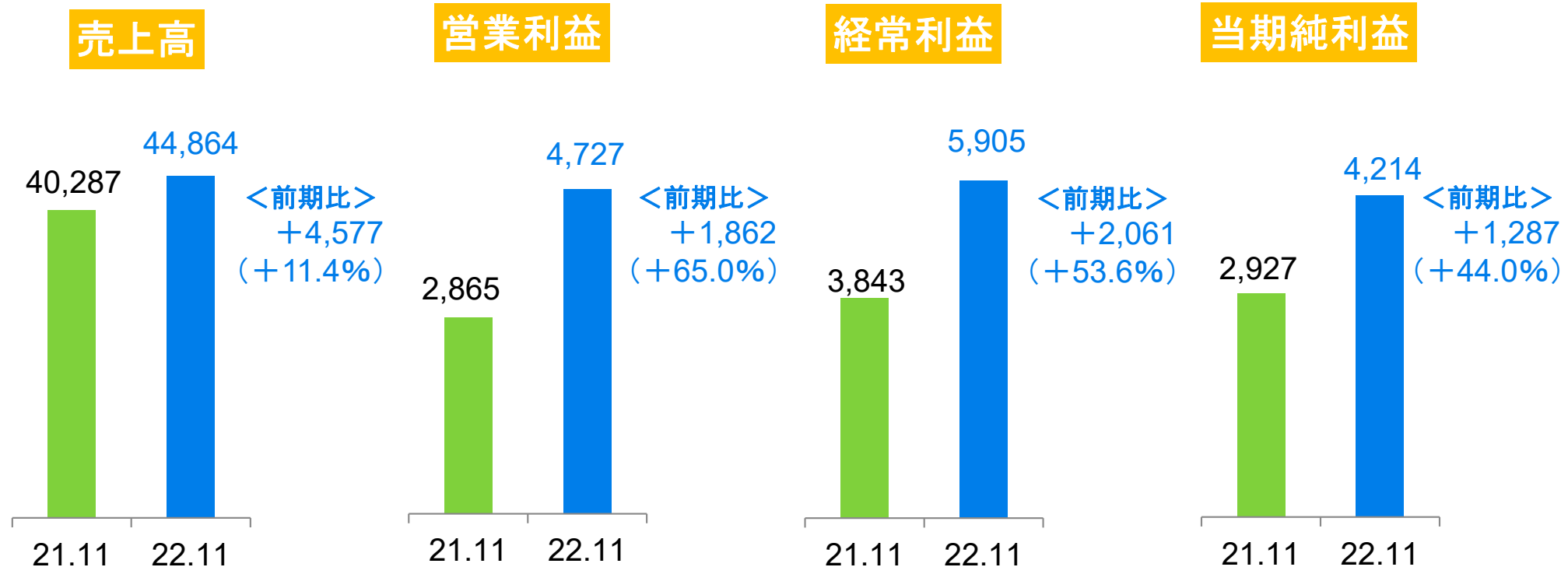
決算説明資料目次

| | | |
|----|-------------------|----|
| I | 2022年11月期決算ハイライト | 2 |
| II | 2023年11月期連結業績予想 | 15 |
| | 【参考資料】 | |
| | 2022年11月期決算時系列データ | 19 |

I 2022年11月期決算ハイライト

I 2022年11月期決算ハイライト <①連結業績概況>

(単位:百万円)



<対前期比> 増収増益

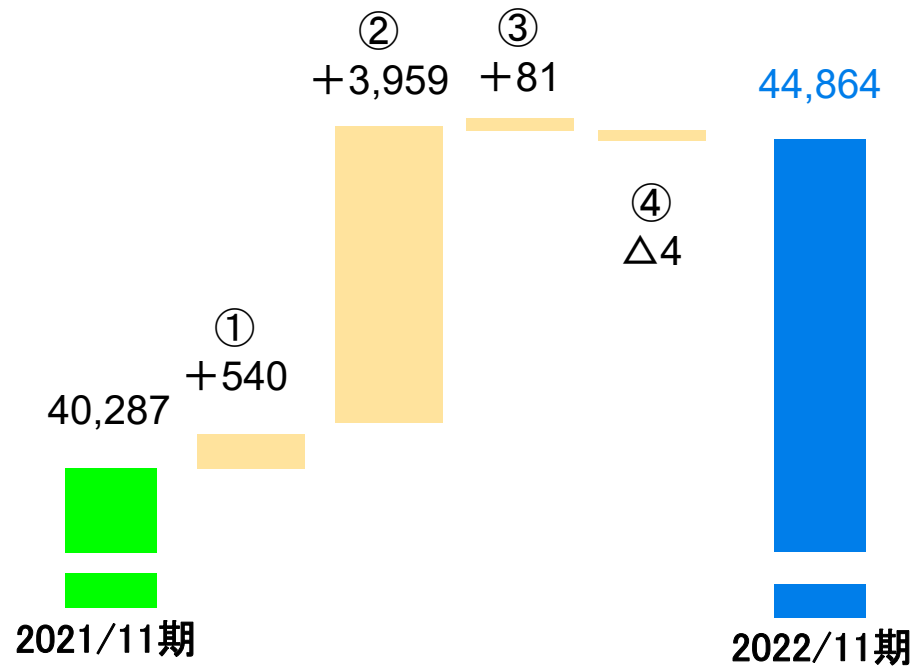
- 売上高 : 農薬事業並びにファインケミカル事業における販売が好調に推移し、加えて販売価格の改定や為替が円安に進行したことから**増収**
- 営業利益 : コロナ禍からの営業活動正常化に伴う経費増加、燃料価格上昇に伴う運賃・倉敷料等の増加(約180百万円)が見られたものの、売上高の増加に加え、特にファインケミカル事業において原材料高騰等の原価上昇に対して適正な販売価格の改定に努めたことにより**増益**
- 経常利益 : 円安の進行に伴う為替差益(407百万円計上)の増加(前期比+229百万円)等により**増益**
- 当期純利益 : 親会社株主に帰属する当期純利益は**増益**



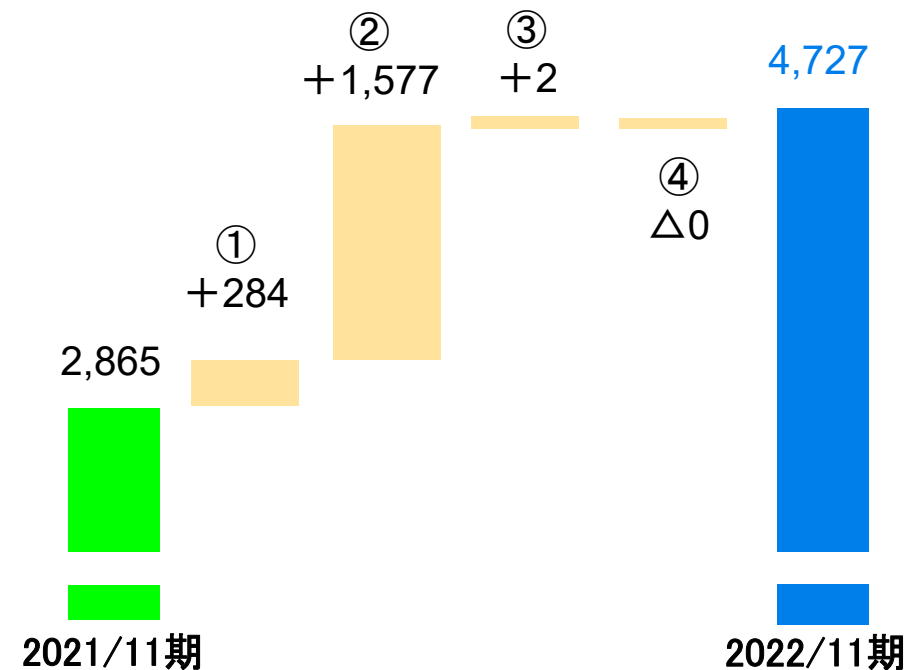
I 2022年11月期決算ハイライト <②連結業績 増減要因>

(単位:百万円)

売上高



営業利益



①農薬事業 +540百万円

国内販売における園芸剤の受注増、海外販売におけるアジア向け並びに中南米向けの需要が堅調だったことから増収

②ファインケミカル事業 +3,959百万円

樹脂や電子材料分野の販売が好調に推移し、かつ価格改定効果もあり増収、中国子会社の販売好調、価格改定も寄与

③繊維資材事業 +81百万円

ヨーロッパのハイブランド向け売上を拡大したことから増収

④その他 △4百万円

①農薬事業 +284百万円

新工場の減価償却費負担(92百万円)が増加したものの、増収により吸収し増益

②ファインケミカル事業 +1,577百万円

増収に加え、原材料高騰等の原価上昇に対して販売価格改定に努めたこと、および中国子会社の好調もあり増益

③繊維資材事業 +2百万円

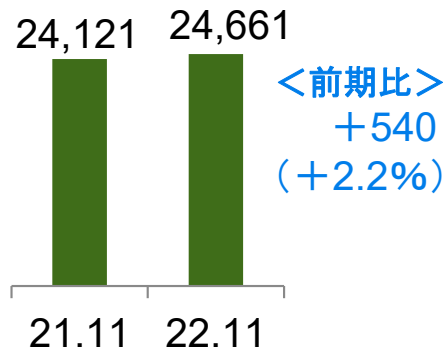
増収により増益

④その他 △0百万円

I 2022年11月期決算ハイライト <③連結業績:セグメント別>

(単位:百万円)

売上高

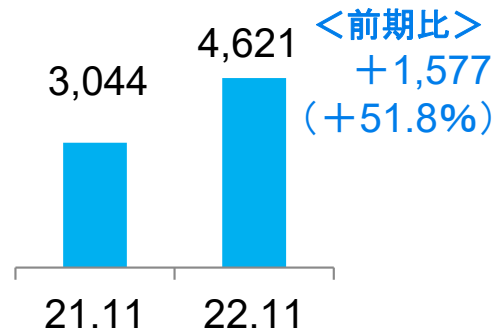
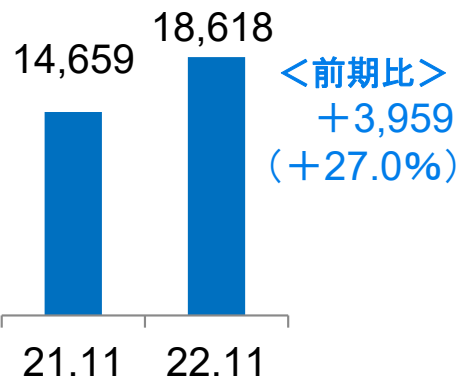


営業利益



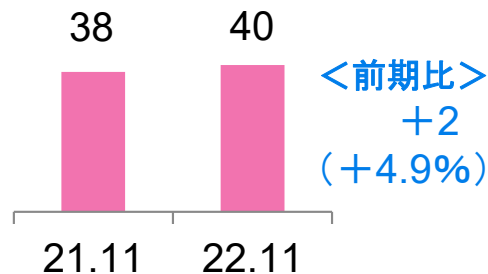
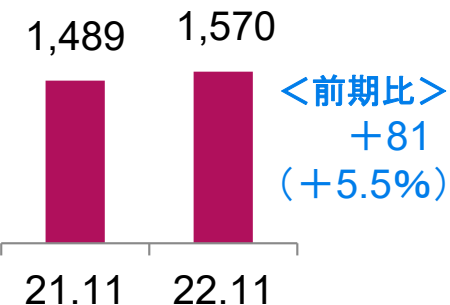
<農薬事業:対前期比トピックス>

- 前々期からの原材料調達難からの回復・正常化
- 水稲除草剤の売上増加 前期比 約115%
- 園芸分野での売上増加 前期比 約103%
- 海外輸出のアジア、中南米を中心とした売上増加 各々前期比 約121%(アジア)、約164%(中南米)
- 営業利益は当初200百万円の営業損失予想であったが、結果は70百万円の営業利益を計上、当初予想比+270百万円の改善



<ファインケミカル事業:対前期比トピックス>

- 樹脂、電子材料分野の売上増加(単体) 各々前期比 約141%(樹脂)、約119%(電子材料)
- 原材料価格高騰を踏まえた価格改定(単体) 売上高の概ね15%相当が価格改定要因
- 中国子会社の迅速な価格改定と売上増加 一部では原材料の高騰幅以上の値上げもあり 売上高は前期比 約208%



<繊維資材事業:対前期比トピックス>

- アパレル分野においてヨーロッパのハイブランド向け売上が増加

I 2022年11月期決算ハイライト<④収益認識基準の影響>

▶ 売上高で▲1,101百万円、営業利益で▲128百万円の影響

◆農薬事業

売上高は、主に販売促進費を、販管費への計上から売上高からの控除に変更したため、△675百万円減少した。但し、営業利益には影響なし。

◆ファインケミカル事業

売上高および営業利益は、輸出取引の出荷基準から着荷基準への変更(242百万円)や有償支給取引の売上計上基準の変更(197百万円)等により、売上高で△426百万円、営業利益で△128百万円の減少。なお減少対象輸出取引分は着荷後に売上高および営業利益に計上される。

(単位:百万円)

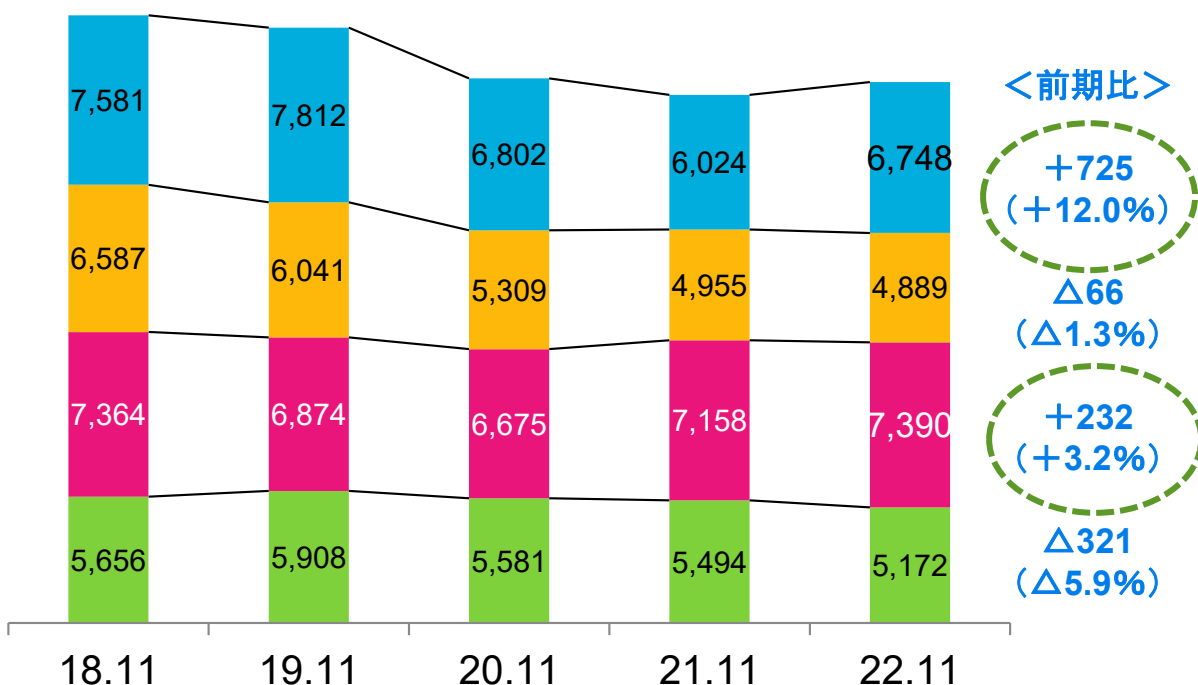
| | 2022年度 【旧基準】 | 影響額 | | | 2022年度 【新基準】 |
|----------------|-----------------|------|------------|--------|-----------------|
| | | 農薬事業 | ファインケミカル事業 | 計 | |
| 売上高 | 45,965 | △675 | △426 | △1,101 | 44,864 |
| 売上原価 | 33,112 | +18 | △278 | △260 | 32,853 |
| 売上総利益 | 12,853 | △693 | △148 | △841 | 12,011 |
| 販売費及び 一般管理費 | 7,998 | △693 | △20 | △713 | 7,284 |
| 営業利益 | 4,855 | 0 | △128 | △128 | 4,727 |

I 2022年11月期決算ハイライト <⑤農薬事業トピックス>

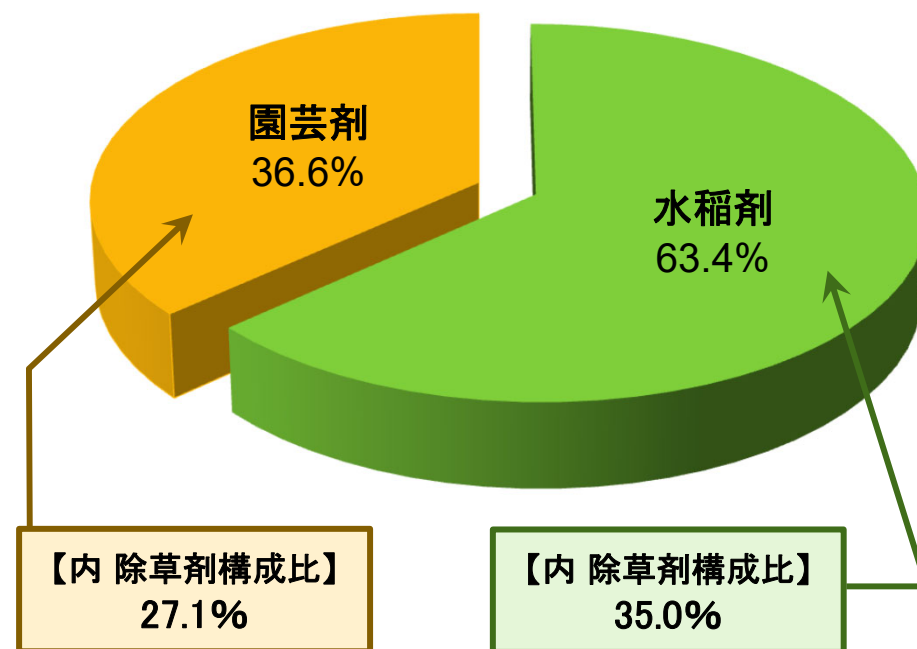
(単位:百万円)

種類別(単体)

■ 殺虫剤 ■ 殺菌剤 ■ 殺虫殺菌剤 ■ 除草剤



国内農薬売上の分野別構成(単体) (2022年11月期)



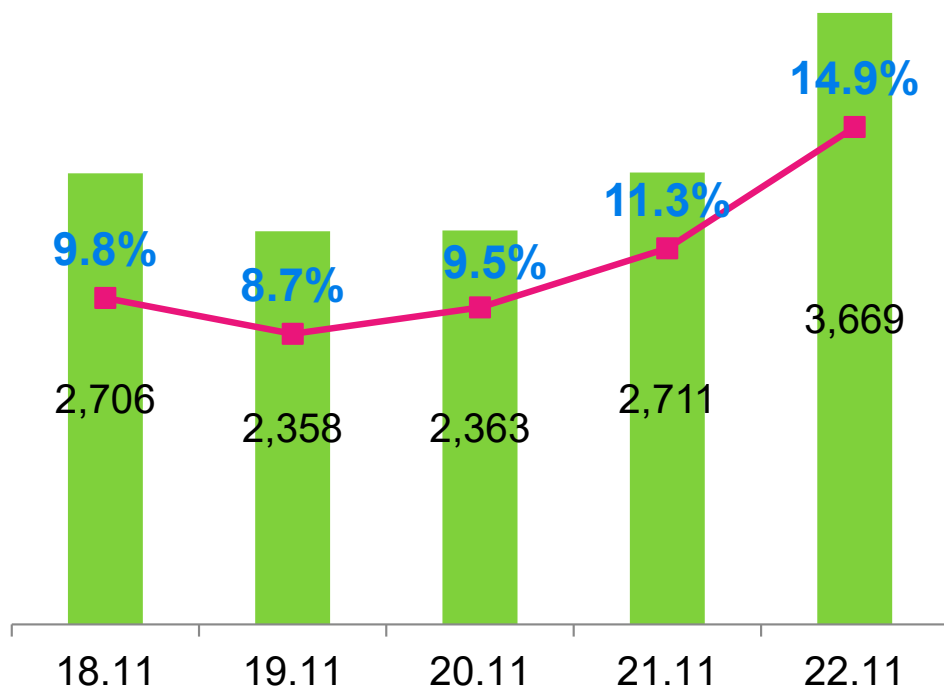
- 国内においては水稲・園芸ともに除草剤の売上が増加、分野別構成比としては、園芸剤が前期比で0.6P増加
- 輸出においては殺菌剤(カスガマイシン)が増加(輸出全体は次頁ご参照)

I 2022年11月期決算ハイライト <⑤農薬事業トピックス>

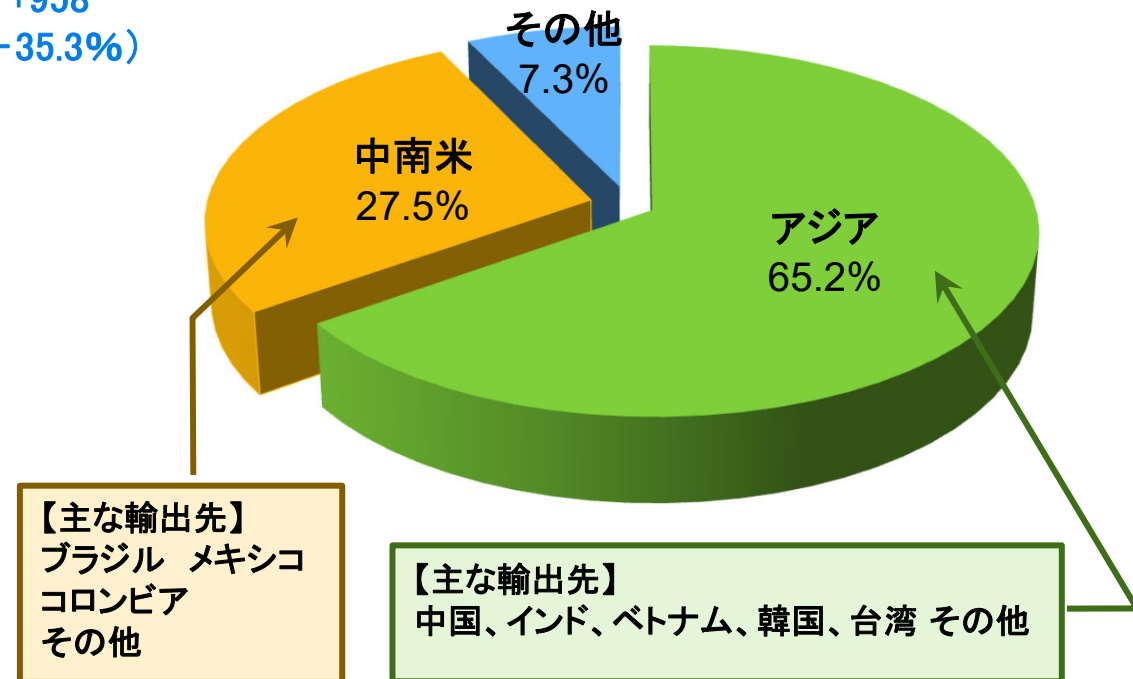
輸出(単体)

(単位:百万円)

■ 輸出 ■ 輸出割合

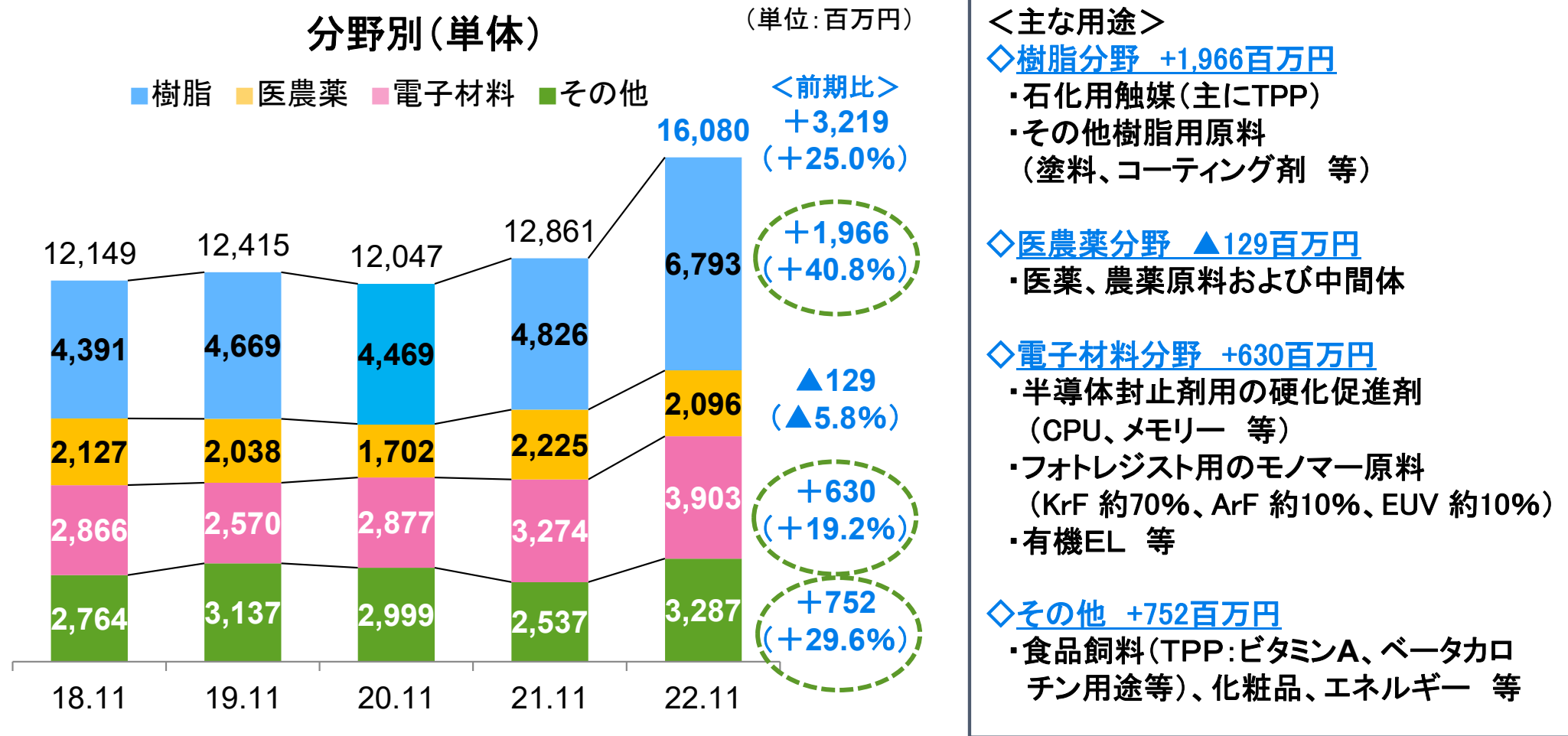


輸出地域別構成(単体) (2022年11月期)



- 輸出売上高は主に中国、インド等アジア向けや、メキシコ等中南米向け出荷が堅調だったことに加え、円安の進行による増収効果(+409百万円)もあり、前期比で大幅な増収となった
- 輸出製品のメインはカスガマイシン(構成比約88%)だが、イプフェンカルバゾンについても徐々に登録国を増やし、実績に寄与しつつある

I 2022年11月期決算ハイライト <⑥ファインケミカル事業トピックス>

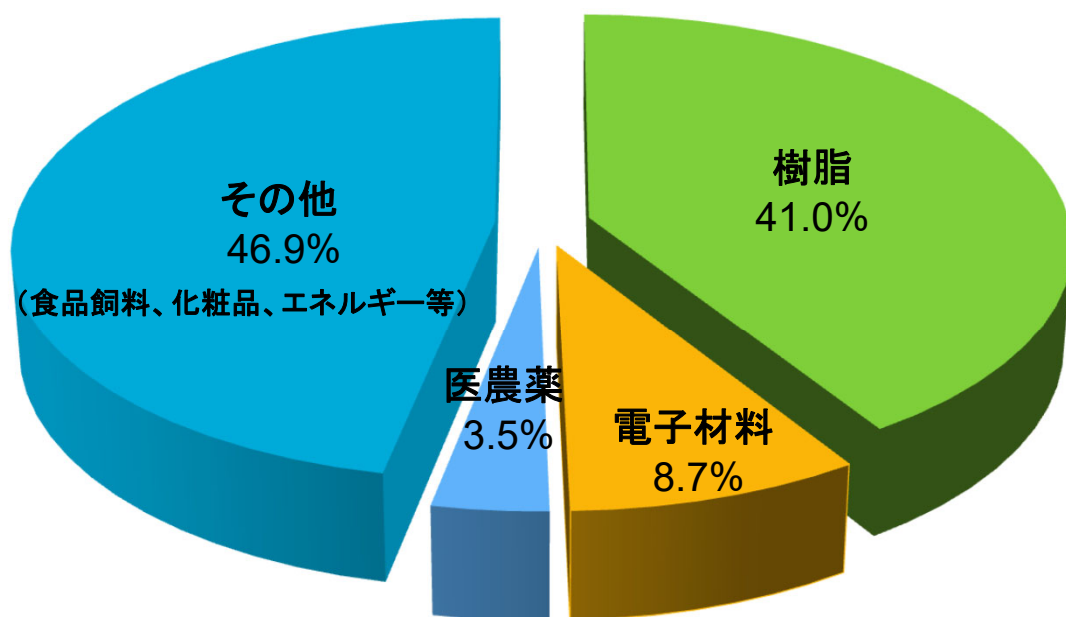


➤ 樹脂および電子材料の販売が順調に推移し、原材料高騰等を踏まえた価格改定効果もあり前期比増収となり、かつ営業利益率も24.8%へ向上(前年同期比+4.0%) ※23頁ご参照

*分野別 … 総売上高を当社の判断により各分野に分類しております。

I 2022年11月期決算ハイライト <⑥ファインケミカル事業トピックス>

TPP分野別売上高(単体)
(2022年11月期)



◆TPP (Tri Phenyl Phosphine) について

- ・世界需要は 5000トン以上、ここ数年増加傾向にある。
- ・ライバルメーカーは、欧州の大手企業、中国新興企業。
- ・ビタミン、医農薬、石油化学、電材などの分野に広く使用されている。

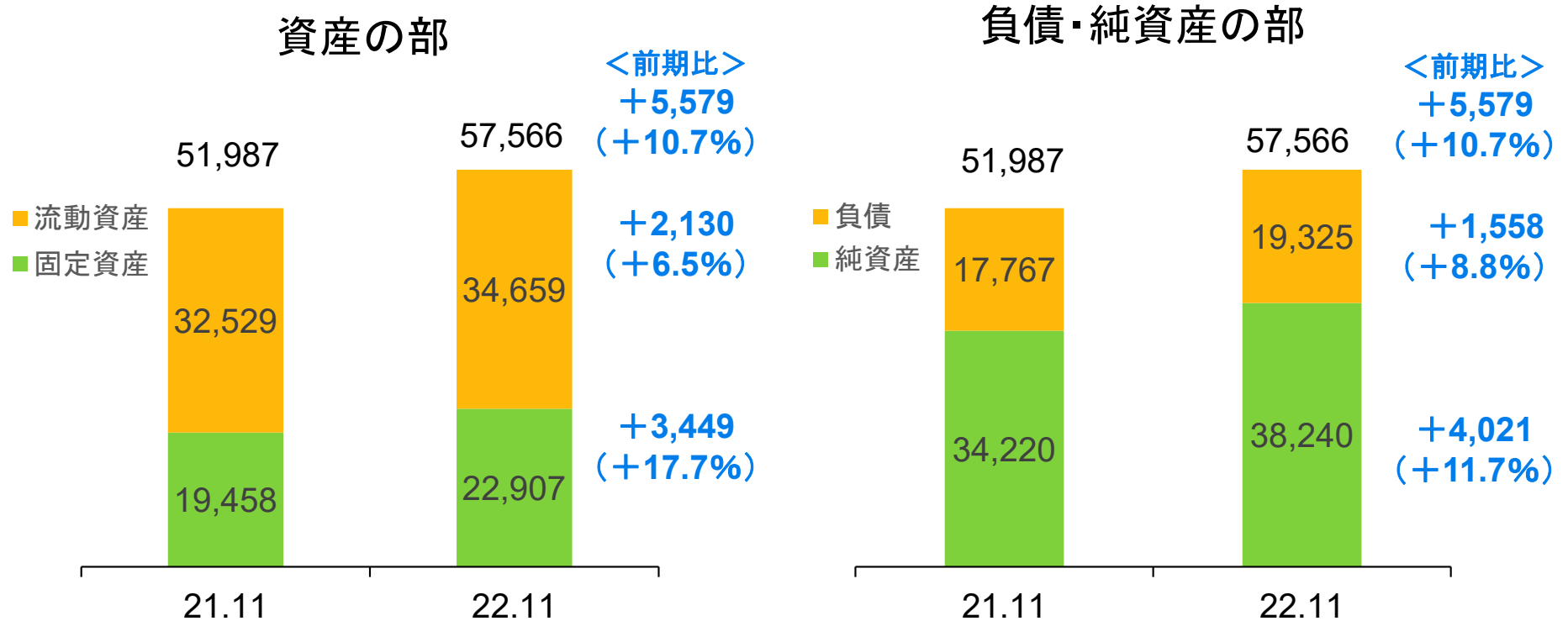
*分野別 … 総売上高を当社の判断により各分野に分類しております。

- 中国子会社(張家港北興化工有限公司)で製造するTPPの用途は、石化がメインであり、親会社である当社が大半を購入している
- 原材料価格が高騰したのは、TPPの原料となるマグネシウム、三塩化リンなど
→マグネシウムの値上げは底を打った感があるものの、まだ最高値の7掛け程度で推移
- 一昨年10月からの急激な原材料価格高騰等に対して、中国では即時に価格転嫁できたこと、一部では原材料の高騰幅以上に値上げができてきているケースもあり、好業績に寄与
- 中国子会社は、中国国内の化学企業の整理等に伴い、TPPのサプライヤーリーダー的な位置付けとなっている



I 2022年11月期決算ハイライト <⑦連結貸借対照表>

(単位:百万円)

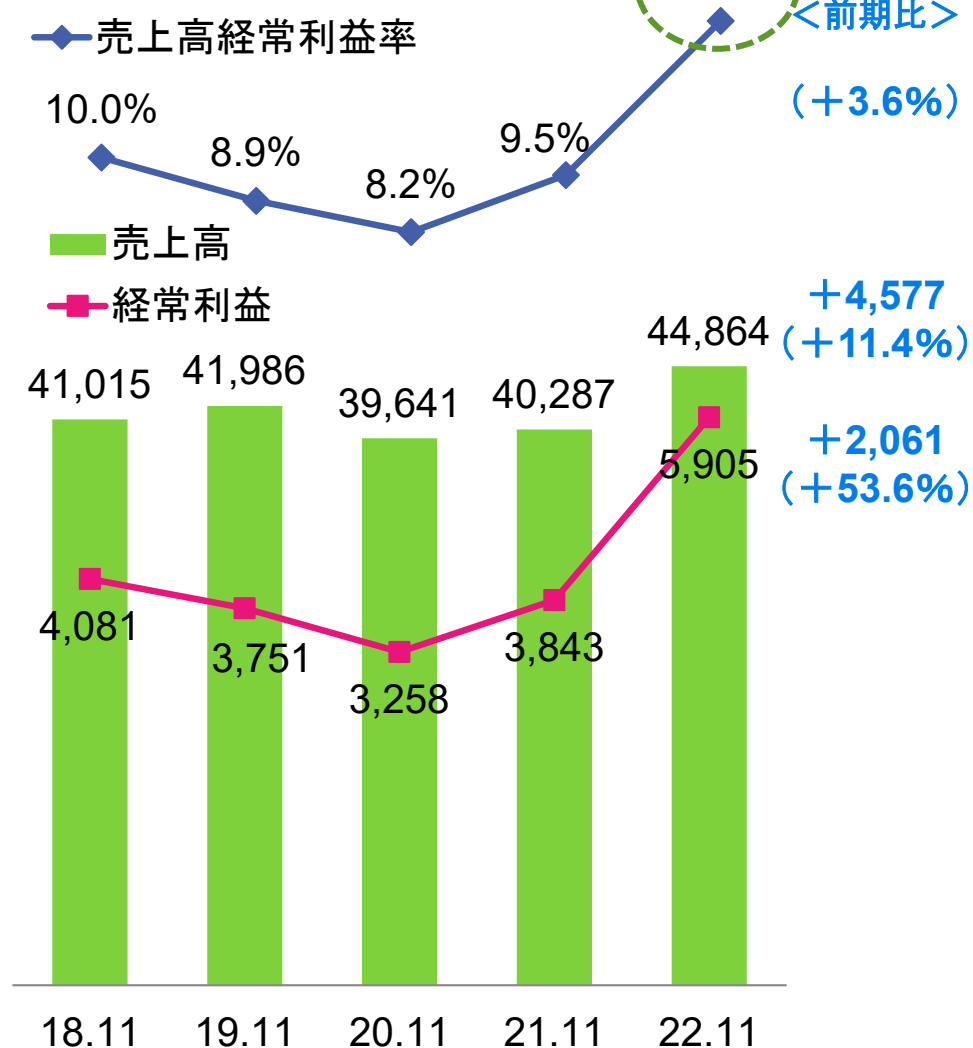
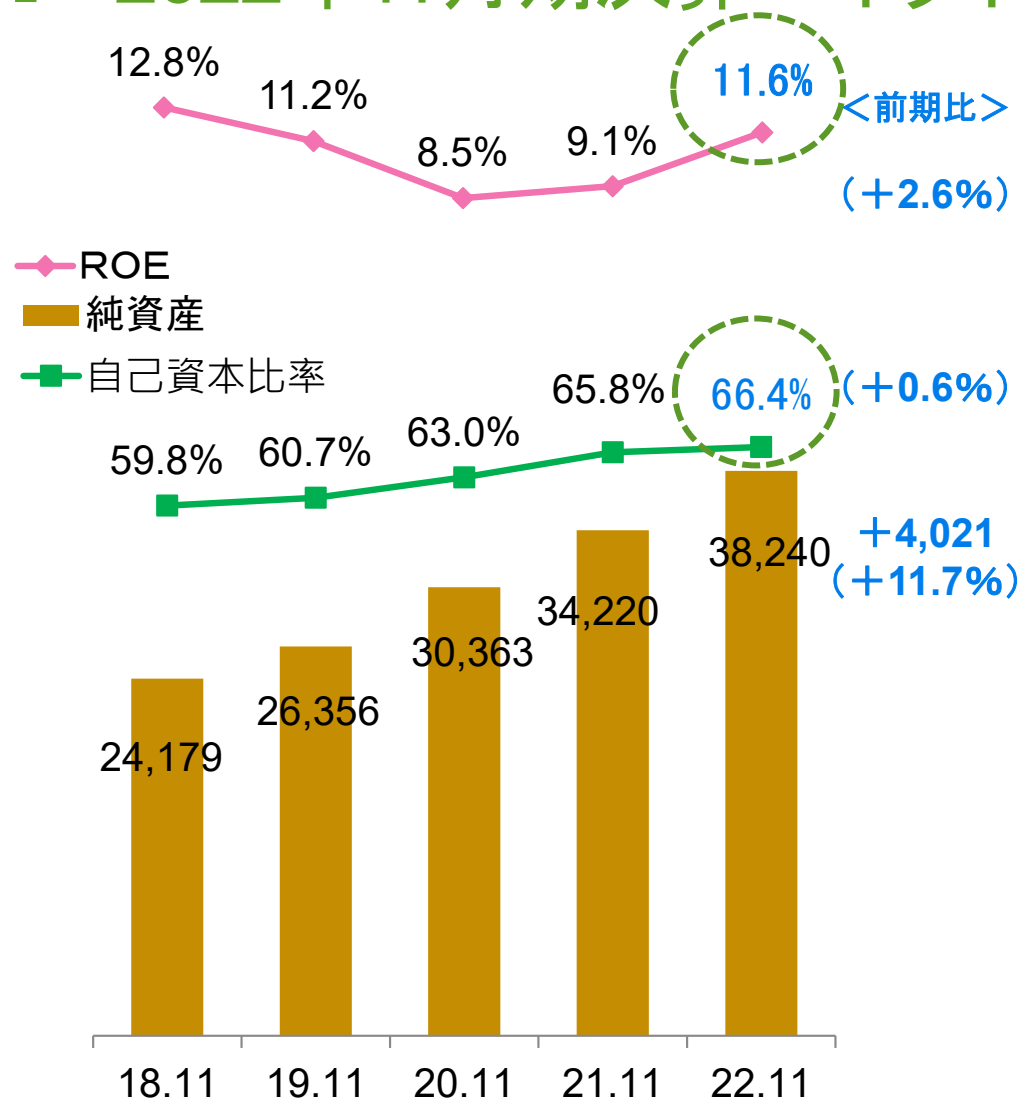


- **資産**
 - ・流動資産:新除草粒剤工場稼働に備えた、農薬の早期生産による在庫の積み増し
 - ・固定資産:新除草粒剤工場の建設に伴う固定資産勘定の計上(3,391百万円)、及び投資有価証券の評価額の増加(413百万円)
- **負債**
 - ・新工場竣工に伴う設備未払金の増加、利益増による未払法人税の増加
- **純資産**
 - ・利益の積み上げと投資有価証券の評価額の増加⇒自己資本比率は66.4%(前期比+0.6%)へ上昇

I 2022年11月期決算ハイライト

<⑧連結経営指標>

(単位:百万円)



- 2025年度までのKPIである、ROE8%以上、売上高経常利益率9%以上、自己資本比率60%以上、いずれの指標も達成しており、かついずれも対前期比で向上
- 自己資本比率は2011年11月期より12期連続上昇



I 2022年11月期決算ハイライト <⑨株主還元>

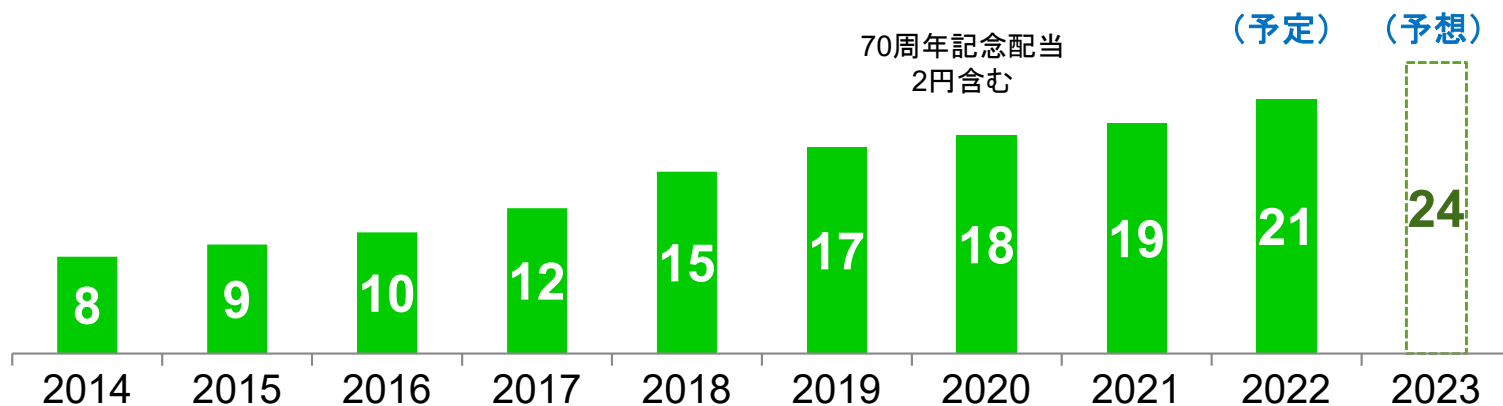
➤ (基本的な考え方)

安定的な利益配分の継続を基本方針とし、内部留保の蓄積や成長投資とのバランスを図りつつ、利益動向に応じた株主還元を実施する

《配当方針》

- 利益水準によらず過去から行ってきた安定配当を継続して実施する
- 収益状況に応じた増配を目指す

1株あたり配当金の推移(円)



| | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 配当金総額 | 221 | 248 | 276 | 327 | 406 | 460 | 487 | 515 | 569 | — |
| 配当性向 | 22.1% | 13.1% | 14.0% | 16.5% | 13.8% | 16.3% | 20.3% | 17.6% | 13.5% | 17.1% |
| 総還元性向 | 22.1% | 13.1% | 14.0% | 31.5 ※ | 13.8% | 16.3% | 20.3% | 17.6% | 13.5% | — |

※自己株式取得 3億円を含む



I 2022年11月期決算ハイライト <⑩中期経営計画進捗状況>

(単位:百万円)

| 業績目標 | 2021年度実績 | 2022年度実績 | 2025年度計画 |
|-------------|----------|----------------|--------------------|
| 売上高 | 40,287 | 44,864 | 46,500 |
| 経常利益 | 3,843 | 5,905 | 4,400 |
| KPI | 2021年度実績 | 2022年度実績 | 2025年度計画 |
| 売上高経常利益率 | 9.5% | 13.2% | 9%以上 |
| ROE | 9.1% | 11.6% | 8%以上 |
| 自己資本比率 | 65.8% | 66.4% | 60%以上を維持 |
| 投資計画 | 2021年度実績 | 2022年度実績 | 2025年度計画 (総枠) |
| 通常設備投資 | 980 | 1,402(累計2,382) | 5,000 |
| 戦略的設備投資・投融資 | 988 | 2,493(累計3,481) | 10,000 |
| 株主還元 | 515 | 569(累計1,083) | 3,000 |
| 農薬の海外登録 | 2021年度実績 | 2022年度実績 | 2025年度に向けた 取り組み |
| カスガマイシン | 累計41カ国 | — | 累計44カ国 |
| イプフェンカルバゾン | 累計3カ国 | 1カ国 | 累計7カ国 |

Ⅱ 2023年11月期連結業績予想

□ 連結業績予想

(百万円)

| | 2022/11実績 | 2023/11予想 | 増減 | 増減率 |
|-------|---------------|---------------|--------|--------|
| 売上高 | 44,864 (100%) | 47,000 (100%) | +2,136 | +4.8% |
| 営業利益 | 4,727 (10.5%) | 4,600 (9.8%) | △127 | △2.7% |
| 経常利益 | 5,905 (13.2%) | 5,300 (11.3%) | △605 | △10.2% |
| 当期純利益 | 4,214 (9.4%) | 3,800 (8.1%) | △414 | △9.8% |

◆想定為替レート(1米ドル=)・・・ 2022年:110円(実績:129.16円)、2023年:130円

- 売上高は、主に農薬事業における国内販売の増加や原材料価格上昇に応じた相応の価格改定、ならびに堅調な海外輸出、ファインケミカル事業における主要3分野(樹脂、電子材料、医農薬)の事業環境の好調や、製造能力の一部増強により、増収の見込み
- 営業利益は、農薬事業における新工場の減価償却費負担増(約530百万円)や新剤である楽粒の普及活動費、グループ全体におけるコロナ禍からの営業活動正常化に伴う販売費及び一般管理費の増加等により、減益の見込み
- 経常利益は、前期に計上した為替差益(407百万円)等を見込んでいないことから、減益の見込み
- 以上により、当期純利益は減益の見込み

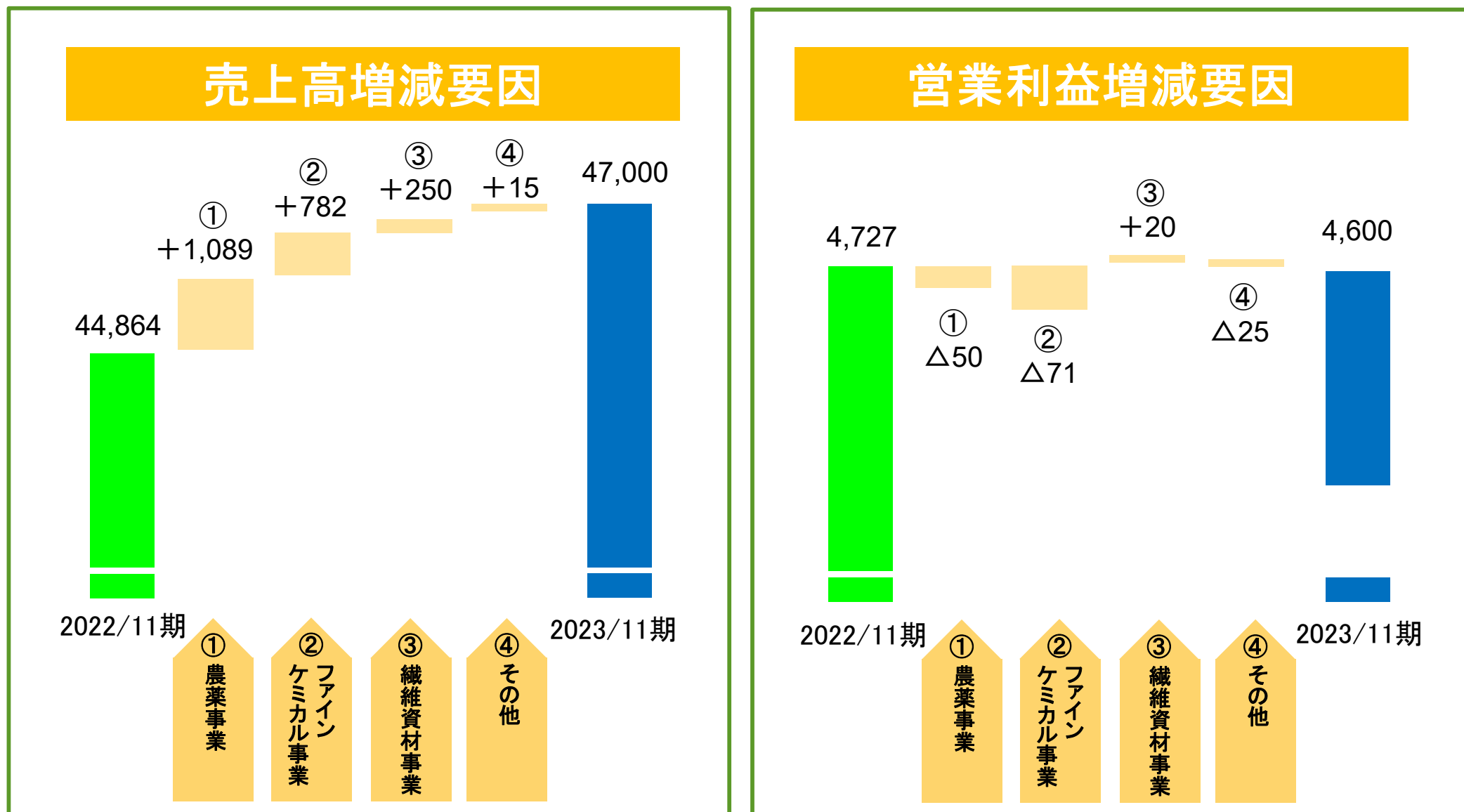


□ セグメント別連結業績予想

| | | 2022/11 実績 | 2023/11 予想 | 増減 | 増減率 | 見込み (百万円) |
|------------|---------------|------------------|------------------|-------|--------|--|
| 農薬事業 | 売上高 | 24,661 | 25,750 | 1,089 | +4.4% | 国内農薬では価格改定、園芸分野の更なる販売拡大、海外での農薬登録取得による海外販売拡大等により増収となる見込み また水稻除草新剤の楽粒シリーズの普及促進による増収にも取り組む |
| | 営業利益 (利益率) | 70 (0.3%) | 20 (0.1%) | △50 | △71.5% | 新工場の減価償却費負担増(約530百万円)や新剤である楽粒の普及活動費、コロナ禍からの営業活動正常化に伴う販管費増加により減益となる見込み(減価償却費増加要因を考慮すれば実質増益) |
| ファインケミカル事業 | 売上高 | 18,618 | 19,400 | +782 | +4.2% | 主要3分野(樹脂、電子材料、医農薬)の販売拡大により、増収となる見込み 前期に取り組んだ、レジストや樹脂分野における製造能力増強による数量増加も見込む |
| | 営業利益 (利益率) | 4,621 (24.8%) | 4,550 (23.5%) | △71 | △1.5% | 主に中国子会社における原材料高騰のピークアウトに伴う減収や、コロナ禍からの営業活動正常化に伴う販管費増加、運賃倉敷料等の増加により減益となる見込み |
| 繊維資材事業 | 売上高 | 1,570 | 1,820 | +250 | +15.9% | 再生繊維素材の本格的な供給の開始、介護分野への販売強化、ヨーロッパのハイブランド向けの拡大等により、増収となる見込み |
| | 営業利益 (利益率) | 40 (2.6%) | 60 (3.3%) | +20 | +48.8% | 主に増収により、増益となる見込み |



□ 連結業績予想(売上高・営業利益増減見込)



【参考資料】 2022年11月期決算時系列データ

□ 連結業績

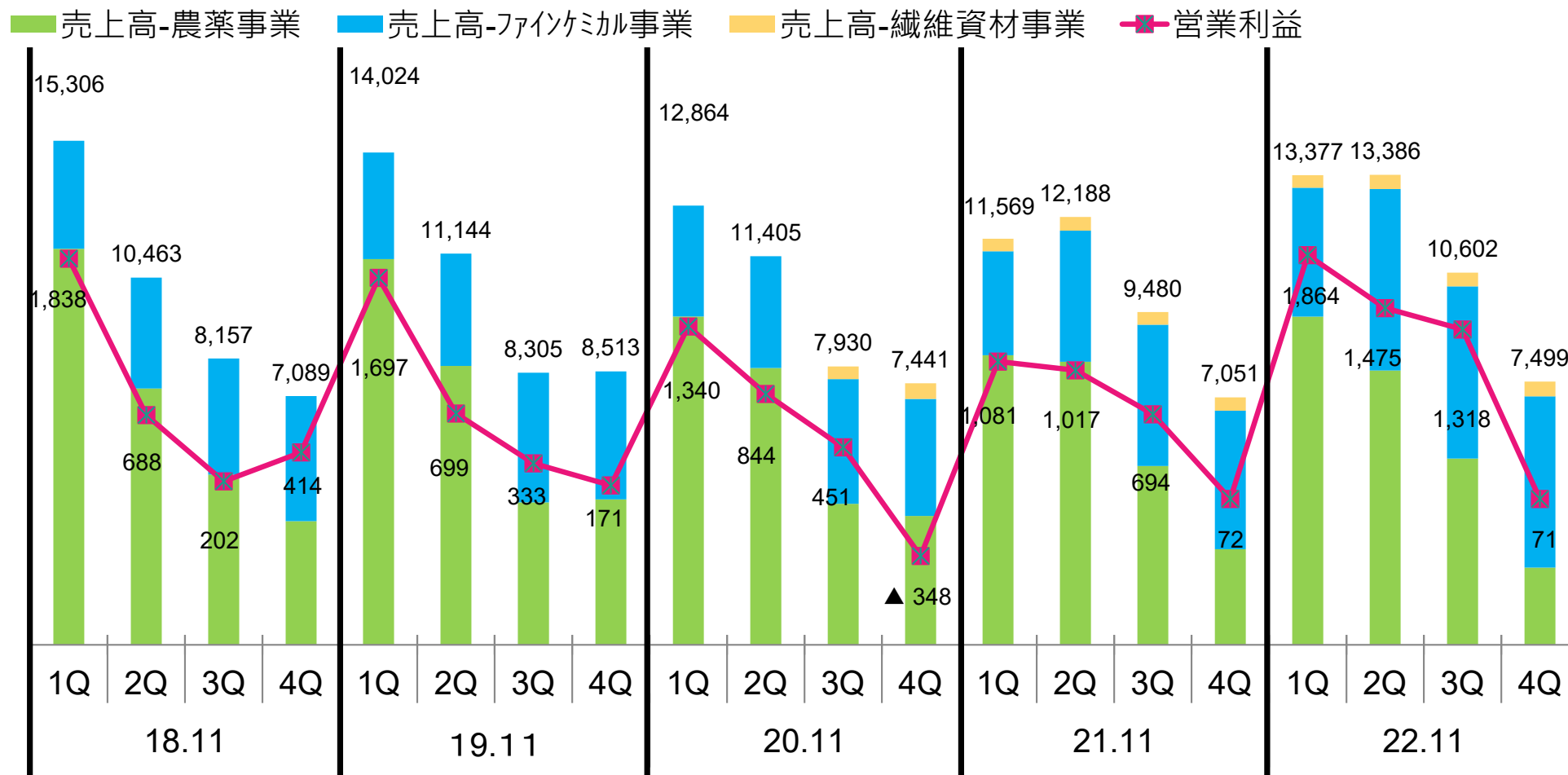
(百万円)

| | 2018/11 | 2019/11 | 2020/11 | 2021/11 | 2022/11 | 前期比 | 増減率 |
|-------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------------------|--------|--------|
| 売上高 | 41,015 (100.0%) | 41,986 (100.0%) | 39,641 (100.0%) | 40,287 (100.0%) | 44,864 (100.0%) | +4,577 | +11.4% |
| 営業利益 | 3,141 (7.7%) | 2,902 (6.9%) | 2,287 (5.8%) | 2,865 (7.1%) | 4,727 (10.5%) | +1,862 | +65.0% |
| 経常利益 | 4,081 (10.0%) | 3,751 (8.9%) | 3,258 (8.2%) | 3,843 (9.5%) | 5,905 (13.2%) | +2,061 | +53.6% |
| 当期純利益 | 2,944 (7.2%) | 2,818 (6.7%) | 2,400 (6.1%) | 2,927 (7.3%) | 4,214 (9.4%) | +1,287 | +44.0% |

◆想定為替レート(1米ドル=)・・・ 2022年:110円、2023年:130円

□ 連結業績（四半期毎の推移）

（百万円）

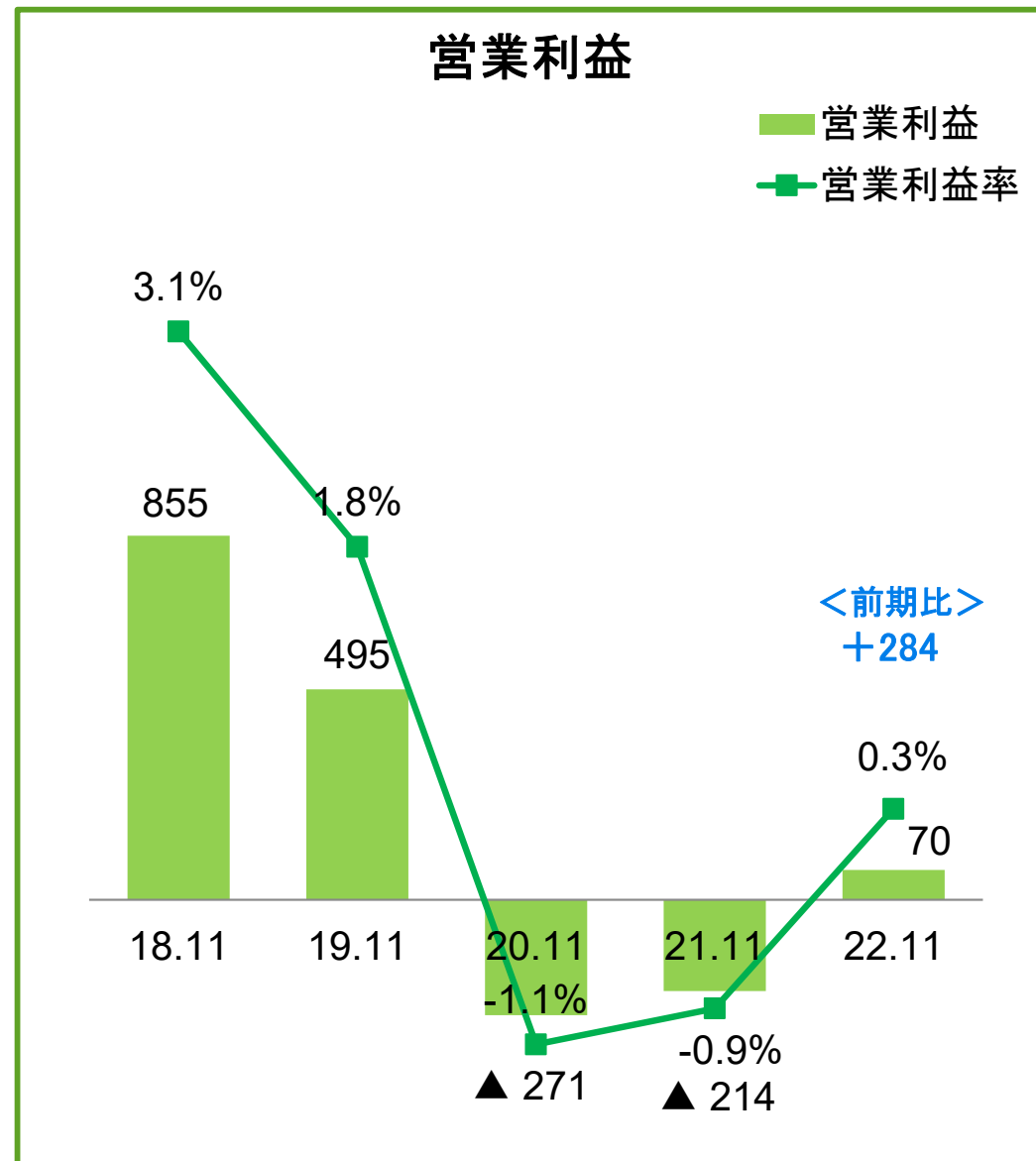
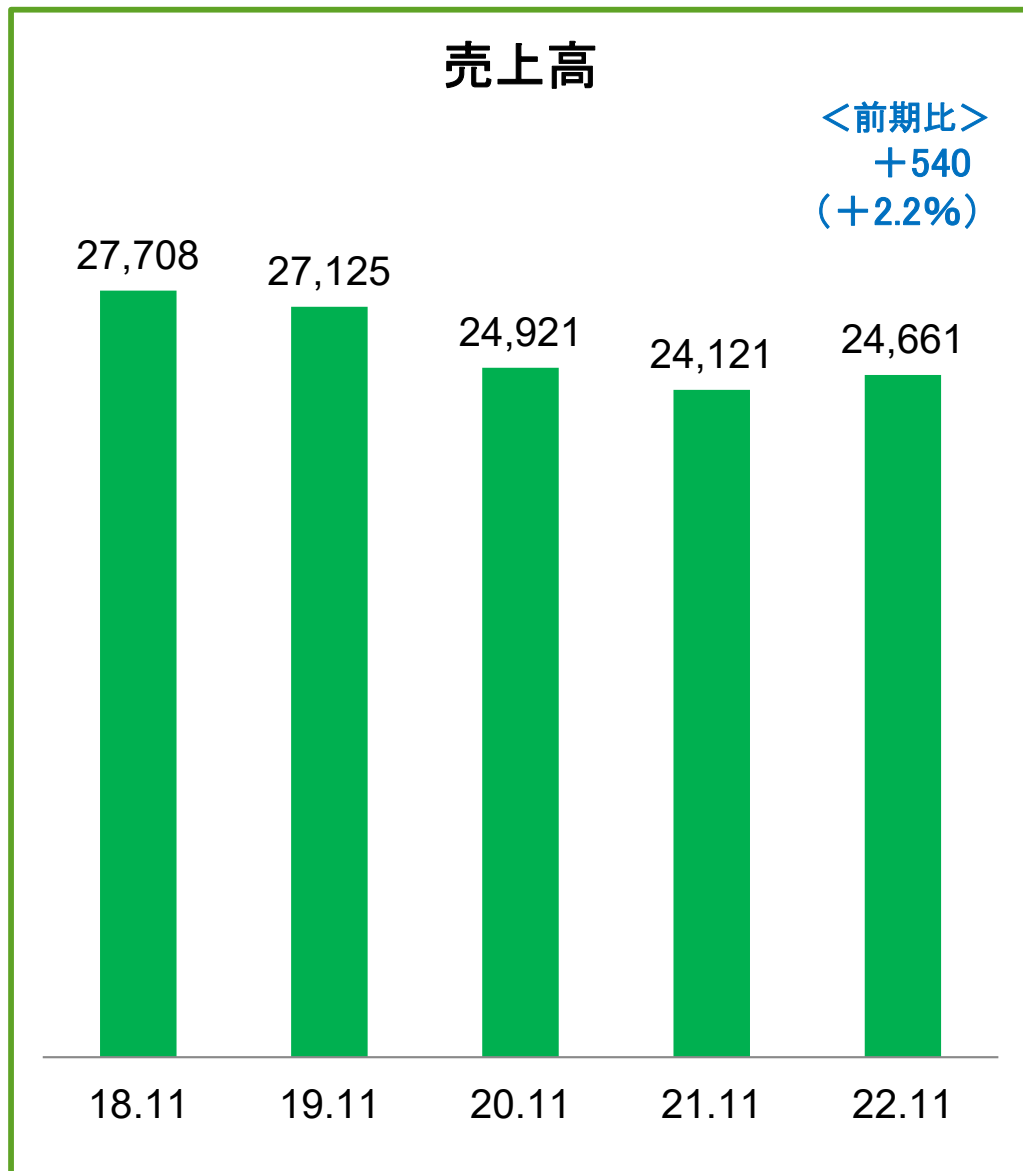


- 農薬の需要は季節性があることから、当社の売上・利益の計上は上期に集中し、下期以降は減少する事業特性がある
- 下期は翌春の需要期に備えた生産に入るため、不需要期の販売減少の一方で、製造コストがかかってくる

□ セグメント別業績

農薬事業

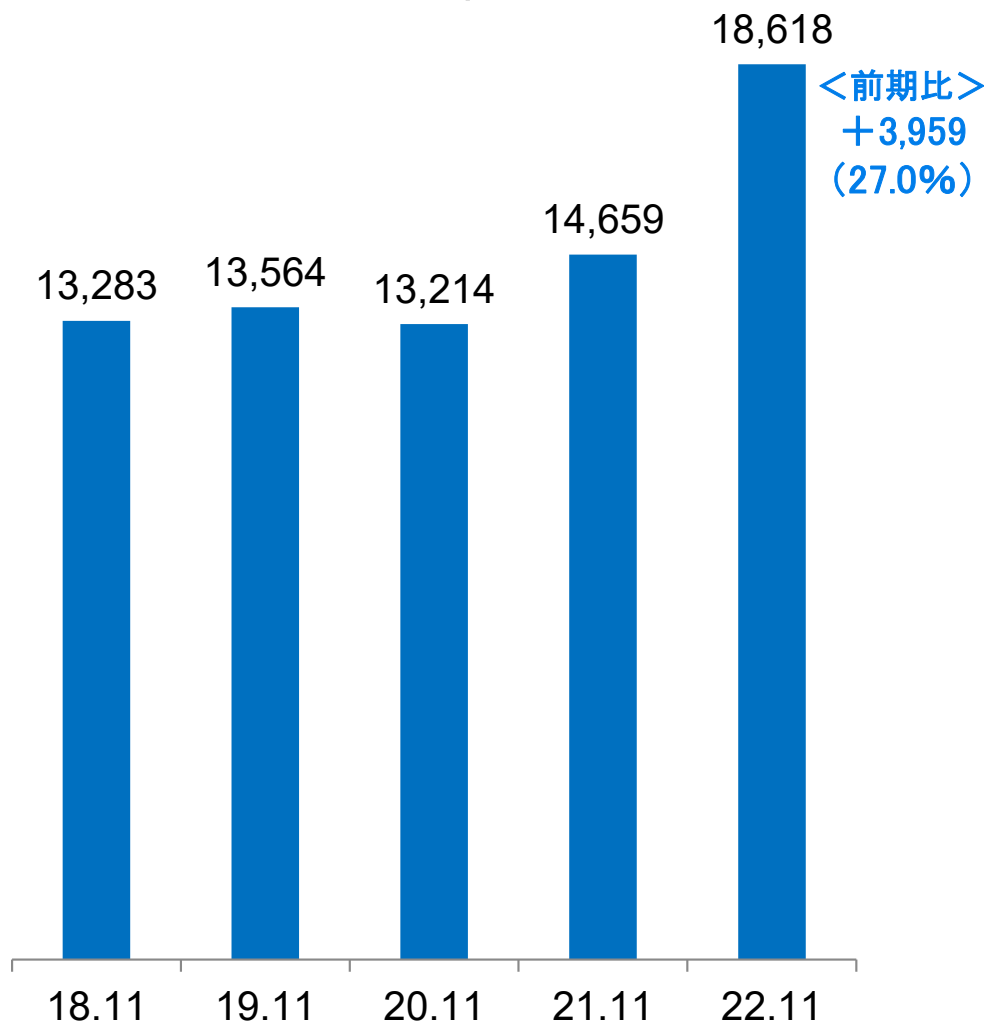
(百万円)



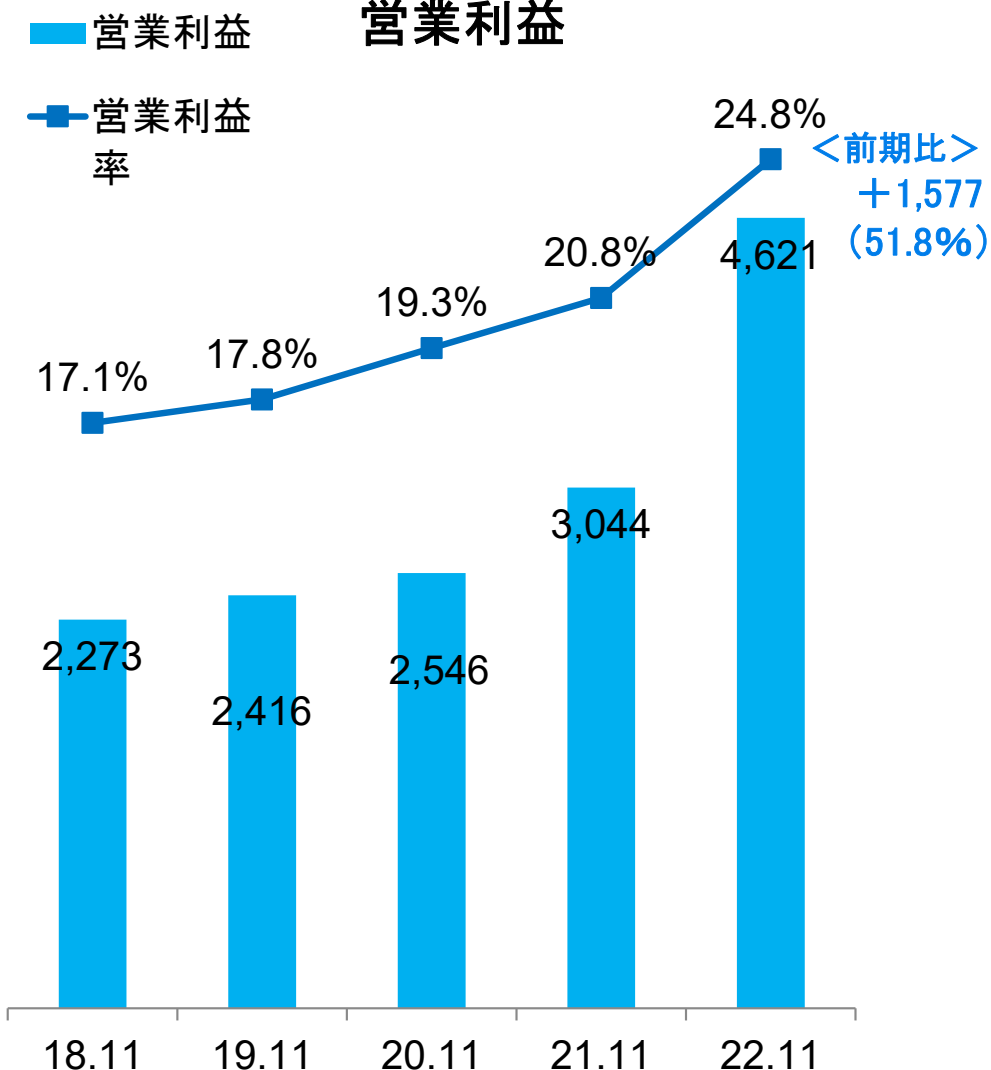
セグメント別業績 ファインケミカル事業

(百万円)

売上高



営業利益

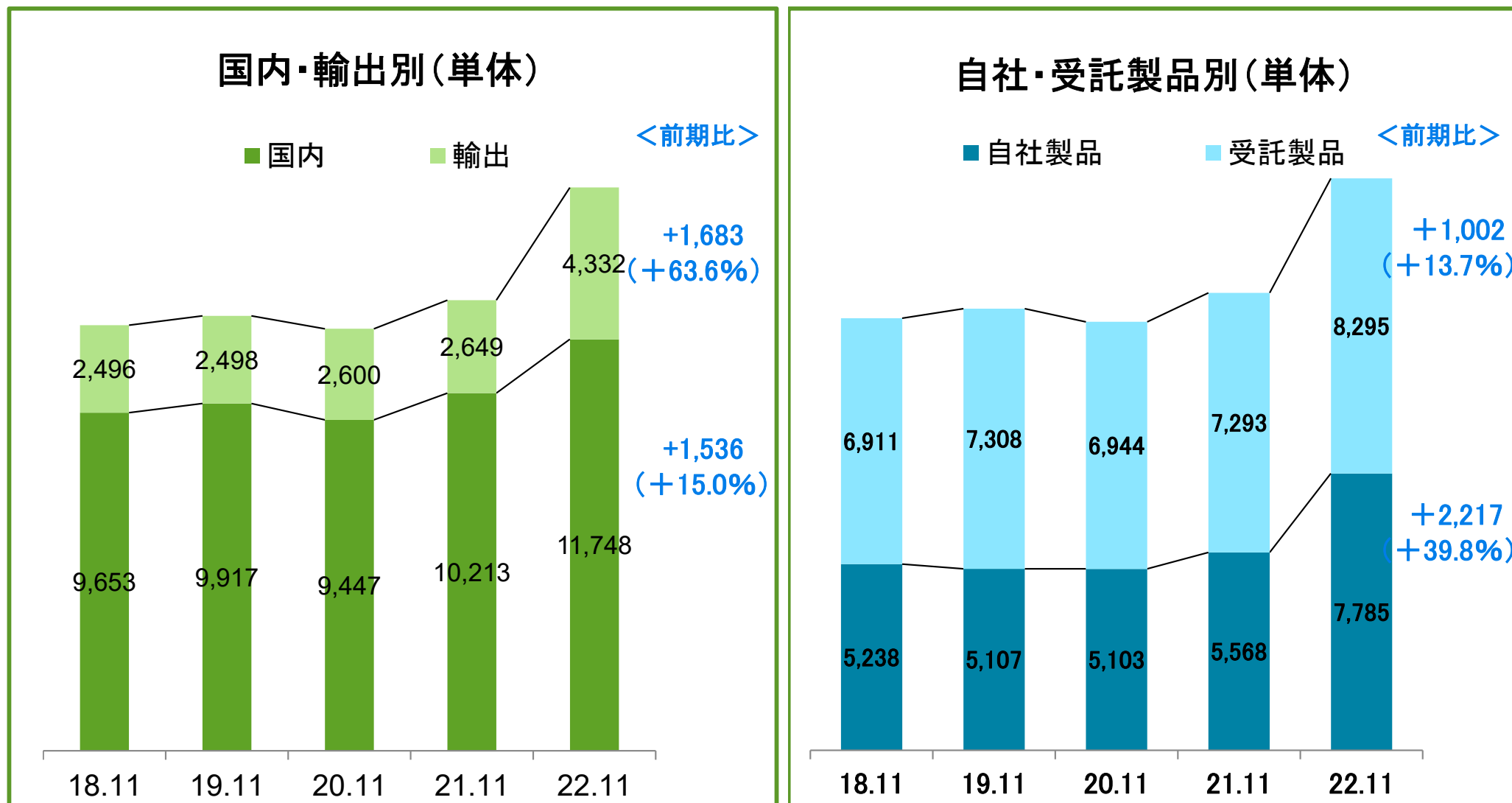


□ セグメント別業績

ファインケミカル事業

(国内輸出別・自社受託製品別売上高)

(百万円)



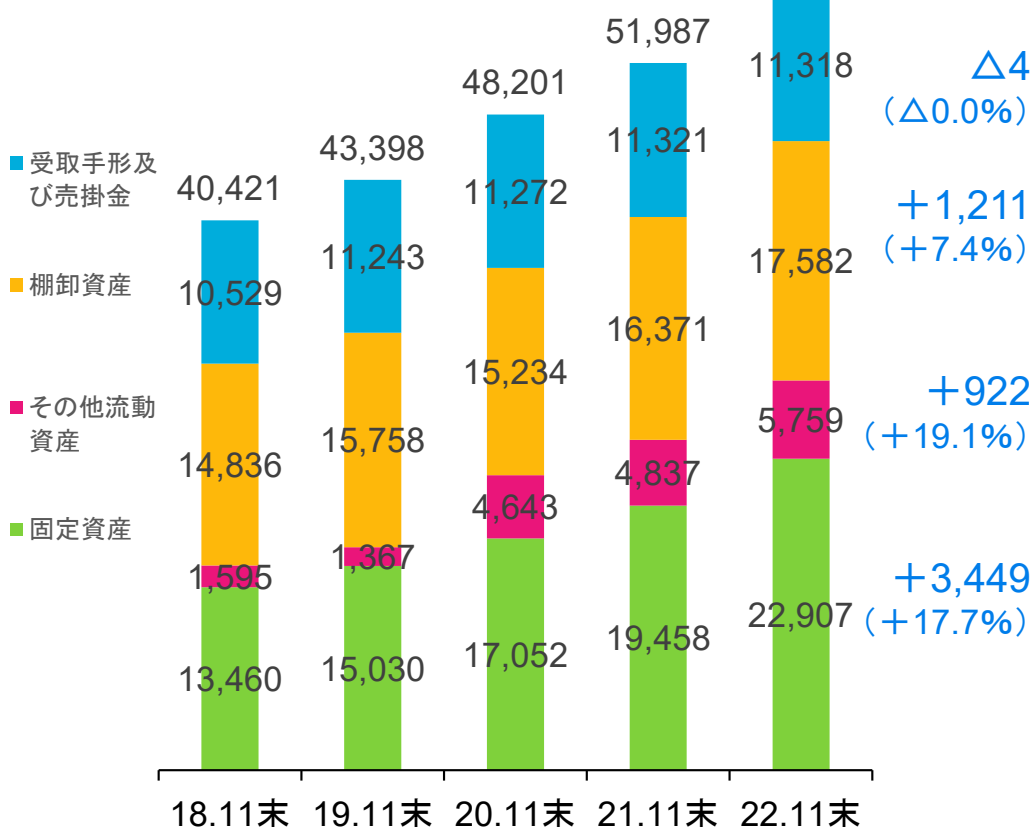
※総売上高による

□ 連結B/Sの推移

(百万円)

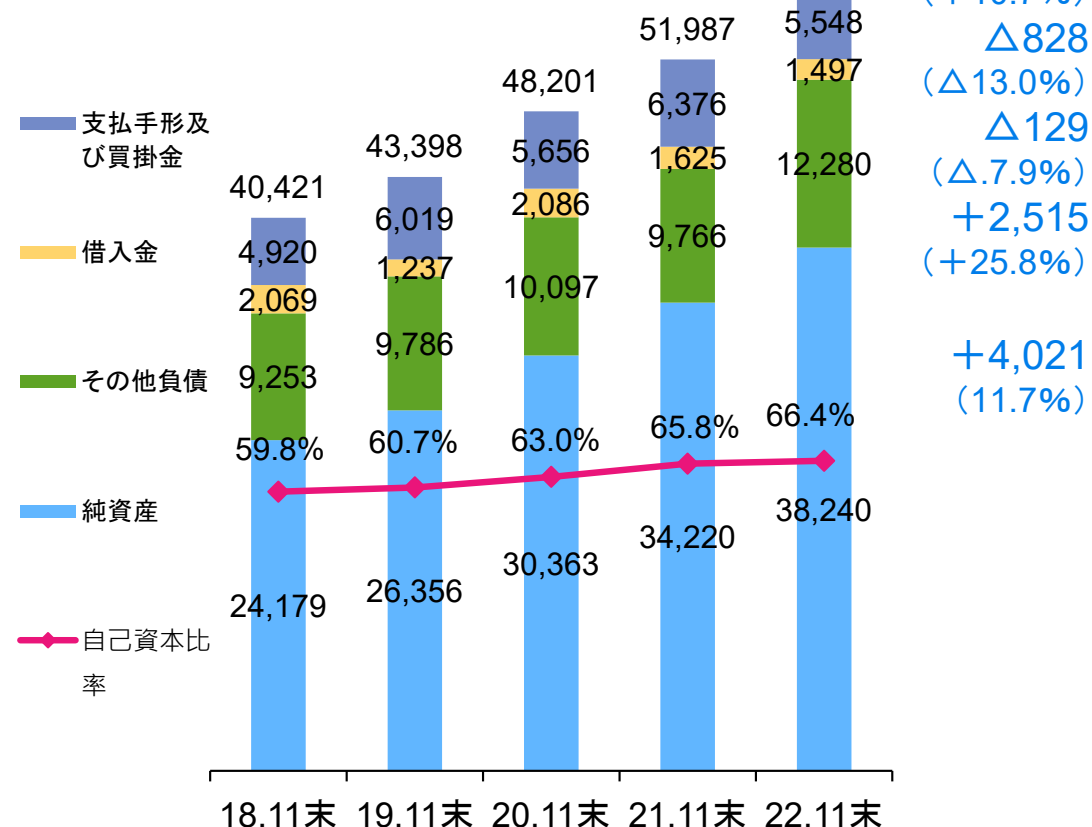
資産の部

<前期比>

+5,579
(+10.7%)

負債・純資産の部

<前期比>

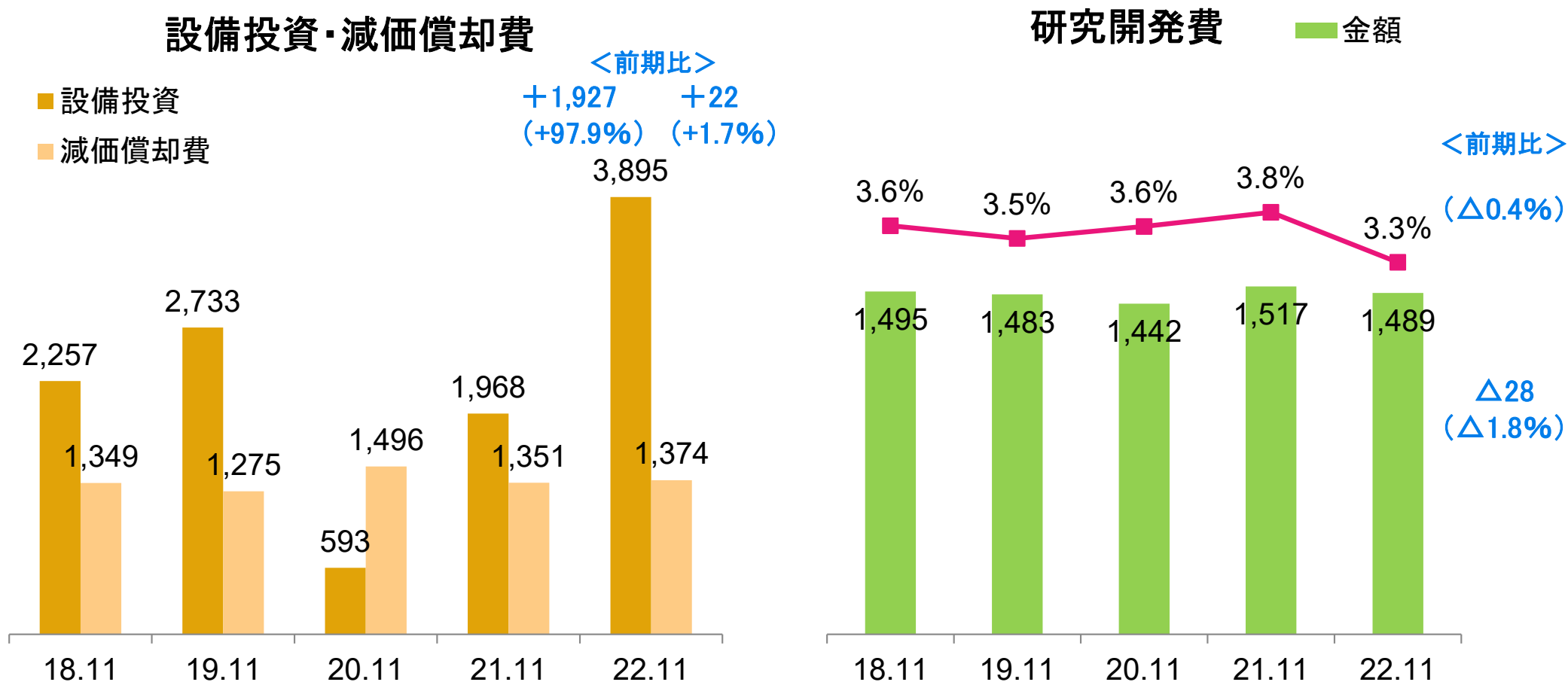
+5,579
(+10.7%)

- 利益の積み上げにより、自己資本比率は66.4%に上昇
- 自己資本比率は2011年11月期より12期連続上昇



□ 設備投資・研究開発費の実績

(百万円)



<設備投資 補足説明>

- 2019年11月期は、岡山工場合成第9工場(1,856百万円)、排水対策設備(148百万円)を含む
- 2021年11月期は、北海道新除草剤工場(988百万円※)を含む ※建設仮勘定計上額
- 2022年11月期は、北海道新除草剤工場(2,493百万円)を含む

【設備投資内訳】戦略的設備投資 2,493百万円、通常設備投資 1,402百万円



本資料に記載されている業績予想・将来の見通しに関する記述等に関しましては、現時点で得られた情報に基づいて判断・算定したものであり、実際の業績は、今後のマクロ経済動向および市場環境、並びに当社グループに関連する業界動向、またその他内部・外部要因等、さまざまな要因によって異なる結果となる可能性があります。

■ お問い合わせ先

北興化学工業株式会社

企画部 IR担当

電話：03－3279－5151

FAX：03－3279－5195